

浦安市の変化と浦安三社祭の変遷

Change in Urayasu and transition of “Urayasu Sanja Matsuri”

1K05A125

指導教員

主査 寒川恒夫先生

醍醐 拓海

副査 杉山千鶴先生

序章

日本各地に「祭」は数多く存在する。筆者の地元である千葉県にも数多くの祭りが存在するが、その中でも浦安三社祭は特異な存在である。

半農半漁の町から都心のベッドタウン化が進むとともに、生活の根本が変わってしまっても浦安三社祭は地域に根付いたままである。一時中断されたことはあったが、これまでに長い歴史を刻んできた。

祭りという信仰に通じる行事が、大きく変貌を遂げた土地にも今なお根強く残っている理由は何かを浦安三社祭を通して考えたいと思いこの研究にいたった。

また、現代において、「スポーツツーリズム」の言葉で表現されるように、スポーツをするため・見るために旅行をすることは人々に広く浸透している。

「祭」も身体を使い行われるので、スポーツイベントと共通している。スポーツが観光資源となったことから「祭」も観光資源となりうる。

浦安三社祭は4年に1度の開催である。そのことから、祭の歴史に対して、変化がゆっくり進む。今が、祭事からイベントへの過渡期にあるといえる。

浦安三社祭が現在、浦安市・地域住民にとってどんな位置づけにあるかを見ることで観光資源としての浦安三社祭を評価し、これからの浦安三社祭のあり方を考察する。

第一章 浦安市の現勢と歴史

浦安市は現在東西線、JR京葉線が通り高速道路も整備された交通の便がとてもよい地域であ

る。しかし、かつては『陸の孤島』と呼ばれる不便な土地であった。その様な地域がどのように変化し、人々の生活を変えてきたかについて浦安の歴史と共に述べる。

第二章 浦安市の観光

浦安市の観光は東京ディズニーリゾートの発展とともにあった。そのため浦安＝東京ディズニーリゾートがある街というイメージが浸透している。その浦安市においての浦安三社祭の観光資源としての位置づけを他の市内の主なイベントの観客数と千葉県内の行・祭事及びイベントの入込動態と比較する。

第三章 浦安三社祭についてとりあげる

浦安三社祭はかつて「暴れみこし」「喧嘩祭」と呼ばれるほど荒々しい祭りであった。その為一時中断されてしまうほどであった。しかし、祭りが再開され、時代と共に警備なども拡大され昔のように民家を破壊するようなことはなくなった。しかし、現在でも特徴的な神輿を担ぐ際の掛け声、担ぎかたは健在である。神輿を担ぐ際の身体動作について述べる。

また、祭りを開催する際に中心になる団体、豊受神社西組若衆の歴史と組織について触れる。

第四章 浅草三社祭との比較

神輿の数は100基程度と浦安三社祭とほぼ同数であるが観客数は約10倍になる。台東区の人人口は16万5,030人で浦安市の16万1,745人とほぼ同数である。このことから浅草三社祭は多くの外

部からの観光客を集めていることがわかる。

第五章 浦安三社祭のこれから

漁業権の放棄、都心のベッドタウン化と浦安の生活や環境は大きく変化してきた。その中でも浦安三社祭は姿かたちを時代や環境、人々の生活や要求に合わせて少しずつではあるが変化させてきた。

4年に1度、オリンピックと同じ年に行われる点や、浦安市からの援助を受けている点、祭りの規模、神輿や山車の数、他の地域にはない独特な神輿

の担ぎ方など観光資源になりうる要素を数多く持っているといえる。

しかし、現在の観客動員数(数字として公開されているのは平成16年のみ)は祭りの規模から考えてかなり少ないといえる。

浅草三社祭を例に出すと、神輿の数は100基と浦安三社祭と同程度ではあるが、観客数は100万人以上で、浦安三社祭よりかなり多い。

これから浦安三社祭をより発展させていくためには何が必要になるかを浦安三社祭の位置づけ、認知度から考察する。